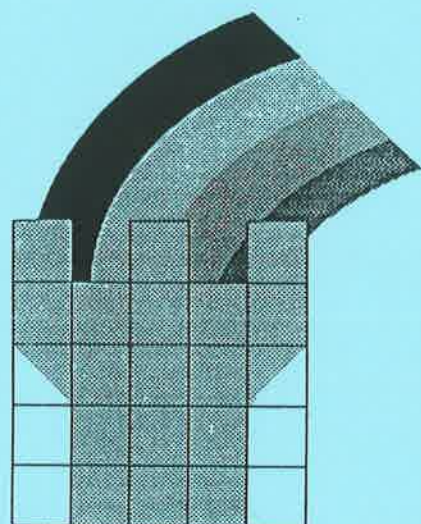


平成 8 年度
姉妹都市親善研修生のあらまし

<トゥール市>

1997年 3 月 20日(木)～29日(土)



TOURS



財団
法人

Takamatsu International Association
高松市国際交流協会

姉妹・友好都市親善研修生の派遣事業について

財団法人高松市国際交流協会では、本市の姉妹・友好都市を訪問し、それぞれの研修テーマに沿った視察見学や親善交流を行うことによって国際理解を深め、国際感覚をかん養する機会として、姉妹・友好都市親善研修生派遣事業を毎年実施しています。

本市は、アメリカのセント・ピーターズバーク市およびフランスのトゥール市とは姉妹都市として、また、中国の南昌市とは友好都市としての縁組みを行っています。平成8年度はフランスにおいて庭園の都と呼ばれているトゥール市へ、市民3名を親善研修生として派遣いたしました。

この研修の特徴として

- (1) 研修生が各自で設定した研修テーマに沿った視察研修を行う。
- (2) 姉妹都市でのホームステイを通じて、家庭生活を体験し、交流を行う。
- (3) 姉妹都市において、訪問先や市民との友好親善を深める。
- (4) 各都市のまちづくりについて視察見学する。

ということが挙げられます。

この度の親善研修生の活動状況を広く市民の皆さんに知っていただくために、冊子にまとめました。

1997年6月

財団法人高松市国際交流協会

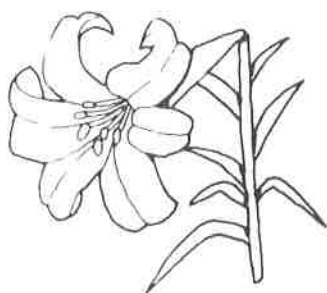
目 次

I	団員名簿	1
II	日 程	2
III	姉妹都市トゥール市の概要	3
IV	行程日記	8
V	研修報告	
	(1) トゥール市への親善研修旅行を終えて	乙武千代子 13
	(2) フランスでの体験生活	平山万友美 17
	(3) 職業訓練所訪問	溝口 千穂 20
	(4) 真の国際交流とは、その中で家庭内主婦の果たす役割りとは 溝口 千穂	22
VI	新聞掲載文－出発に際しての抱負	24

I 団 員 名 簿

(50音順)

氏 名	性別	年齢	住 所	勤 務 先	研 修 テ ー マ
藝 武 千代子 	女	49	高松市生島町 608-29	高松市教育委員会学校 教育課「虹の部屋」	トール市の伝統文化と 子供たちの家庭でのしっ け、不登校児の対応等
平 山 方友美 	女	24	高松市田町 5-5	マルハ(株)四国支店	美術品の鑑賞とそれを支 える食物および市場につ いて
溝 口 千穂 	女	45	高松市林町 219-2-202	主 婦	これからの家庭での主婦 の役割



Ⅱ 日 程 表 (トゥール市コース)

日時	月日・曜	地 名	現地時間	交通機関	日 程
1	3月20日 (木)	高松発 関空着 関空発 パリ着	8:35 9:15 11:40 17:05	ANK722 JAL425	空路、関西空港へ 出国手続 空路パリへ(所要12時間) ホテル(パリ泊)
2	3月21日 (金)	パ リ	終 日	専用車	パリ視察見学 トロカデロ広場、ノートルダム寺院 ルーブル美術館(パリ泊)
3	3月22日 (土)	パ リ	終 日	専用車	パリ視察見学 ベルサイユ宮殿 市内視察(パリ泊)
4	3月23日 (日)	パリ発 サン・ピエール・デ・コール着 アンボワーズ着	15:25 16:21 17:00	TGV 8441	列車にてサン・ピエール・デ・コールへ 着後アンボワーズ観光 夕食はカーブ内のレストラン (アンボワーズ市内ホテル泊)
5	3月24日 (月)	トゥール	夜		終日古城巡り トゥレーヌ仏日協会との交流会 (トゥール・ホームステイ)
6	3月25日 (火)	トゥール	朝食後 11:00 12:30 14:30		研修テーマに応じた視察見学 トゥール市助役表敬訪問 助役主催の昼食会 市庁舎見学、市内観光 (トゥール・ホームステイ)
7	3月26日 (水)	トゥール発 パリ・モンパルナス着 パリ・北ノルド発 ロンドン着	9:27 10:35 12:13 14:13	TGV8414 TGV9027 専用車	列車にてパリへ 列車にてロンドンへ ホテル(ロンドン泊)
8	3月27日 (木)	ロンドン	終 日	専用車	ロンドン視察見学 ランベス橋、ロンドン塔、バッキン ガム宮殿など(ロンドン泊)
9	3月28日 (金)	ロンドン ロンドン発 フランクフルト着 フランクフルト発	午前 16:00 18:35 20:00	専用車 BD837 JAL428	ロンドン視察見学 空路フランクフルトへ 空路、帰国の途へ (所要12時間)(機中泊)
10	3月29日 (土)	関西空港着 関西空港発 高松空港着	16:15 18:15 18:50	ANK723	空路、高松空港へ 解散

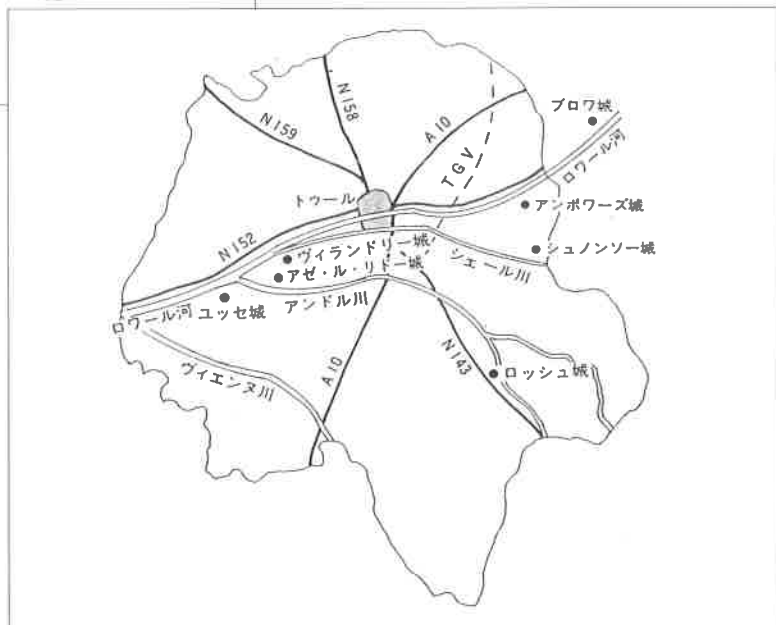
Ⅲ 姉妹都市トゥール市 (Tours) の概要

□姉妹都市提携 1988年6月3日 トゥール市で調印
 (1988年10月21日 高松市で調印)

□所 在 フランス共和国アンドル・エ・ロワール県
 (市役所所在地Cabinet du Maire 37037 Tours Cedex FRANCE)



フランス共和国



アンドル・エ・ロワール県

<トゥール市の概要>

1 人口

133,403人（トゥール都市圏には287,937人）

2 面積

34.36km²

3 地勢

パリの南西約235kmでフランス共和国のほぼ中心部に位置し、フランス最長の大河ロワール河とシェール川の合流点に形成された盆地にあり、豊かな自然に恵まれている。

東経 0度41分 北緯 47度23分

4 都市の性格

アンドル・エ・ロワール県の県都で、経済、観光、文化都市。

フランスの庭、庭園の都と呼ばれ、ロワール地方の中心都市となっている。

5 気候

大陸性気候で、偏西風と北大西洋海流の影響により、四季がはっきりしている。

年間平均気温 11.2℃（1月平均3.8℃ 7月平均19.1℃）

年間降水量 687mm

年間日照時間 1,859時間

6 交通

フランスのほぼ中心部に位置するだけでなく、スペイン、イタリア、ドイツ、イギリスの西欧主要各国から等距離にあり、フランスの中西部の道路と鉄道の要衝として、西ヨーロッパの十字路となっている。

1990年9月、TGVアトランティックが開通。パリ～トゥール駅間を55分で結んでいる。

また、トゥレーヌ地方は、5大幹線道路の中心地に位置する。

鉄道：パリへ 55分（TGV）

 ボルドーへ 2時間15分（TGV）

 リヨンへ 4時間51分

 ナントへ 1時間35分

高速道路（A10）

 パリへ 2時間

 ポワチエへ 1時間

（参考）東京（成田）～パリ 約13時間（飛行機直行の場合）

パリ（シャルル・ドゴール空港～モンパルナス駅）～（TGVにて）～トゥール 1時間40分

7 沿革

トゥール市は、フランスの歴代の王達が美しいお城を競って建てたトゥレーヌ地方の中心都市として発展してきた。

18世紀にロワール河とシェール川を結ぶ南北の幹線道路が開設され、この町の特色ともいえるべき、均衡のとれた都市計画の出発点になった。

1790年にアンドル・エ・ロワール県の県庁所在地となったトゥールは、経済、観光、文化の中心地として栄え、市街地には中世以来の古い建物が立並んでいる。歴史的遺産もよく保存されており、シーザーの丘付近にあるトゥール城を修復し、博物館としている。

また、最近では、機械金属工業を中心に近代的都市としての発展も目覚ましく、伝統文化との調和のとれた美しい都市である。

8 主な観光地

ロワール河流域の古城巡りは特に有名で、パリ、コートダジュールに次ぐフランス第3の観光地であり、パリからの1日観光コースとなっている。

16世紀の王フランソワ1世がこの地方に移り住み、こよなく愛したアンボワーズ城、ブロワ城、シュノンソー城がある。またロワール河支流のアンドル川流域には、シャルル・ペローの童話「眠れる森の美女」のモデルとなった幻想的なユッセ城、ロワールの古城の中で最も女性的といわれるアゼ・ル・リドー城やルイ11世で知られるロッシュ城などがあり、もう1本の支流、シェール川沿いにはヴィランドリー城がある。

また、フランソワ1世が文化の発展のため、アンボワーズ城へ招いたレオナルド・ダ・ヴィンチ、トゥレーヌ地方を舞台とした傑作「谷間の百合」の大家作家バルザックをはじめ、ロンサール、ラブレー、デカルトなど歴史上の名だたる人達の住居やゴシック建築の傑作であるサンガシア寺院などが観光地となっている。

その他の観光地

歴史的建築保存地区（プリュムロー広場付近）、シャルルマーニュの塔、サン・ジュリアン教会、サン・マルタン教会堂、時計塔、ギルド博物館、ガーウィン・ルネッサンス・マンション、ボタニック公園（植物園）、トゥール美術館、トゥール市庁舎およびトゥール駅（19世紀末、パリ・オルセー美術館の設計者、ヴィクトール・ラルーの作）

9 産業

伝統的なものとしては、農業、酪農、皮革、織物工業、製紙業が盛んで、ブドウ酒の産地としても有名である。ロワール渓谷のワイン（シノン、ブルグイユ、ブーブレ、モンルイ）は定評があり、全世界に輸出されている。

また、17世紀にヨーロッパ各地で様々な産業を支えてきた職人がトゥレーヌ地方に集まってきたことか

ら、細工技術の伝統が現在にも受けつがれている。有名なコロール人形は、その伝統技術の一つである。

近代的なものとしては、化学工業、医薬品工業、機械工業、電気工業、電子工業、プラスチック工業がある。

また、ヨーロッパを縦横に貫通する軸の交差点という地理的条件に恵まれ、新しい経済空間と各種ビジネスセンターが形成され、企業や各種研究機関も多数立地している。さらに、専門大学や研究所、産業の立地を図るテクノポル（フランス国内に20あるテクノポリスの一つ）を建設中である。

また、毎年5月に見本市が開かれる。この見本市は歴史が古く、県や地域のさまざまな経済活動の接触と交換の場であり、製品と業種の多彩さ、質の高さが好評である。毎年9月には農業見本市が開かれ、畜産が主となっている。

労働人口は、約61,000人（市の人口の約45%）で、内訳は次のとおり。

農業	0.7 %
建築業・公共事業	9.3 %
工業	21.3 %
官公庁	23.2 %
第三次産業	45.5 %

10 教育

初等教育は、5年間（6～11歳）、中等教育は7年間（日本の中学校、高校に当たる）、そして、高等教育（大学）へと続くが、大学に入る前に入学資格試験（バカロレア）がある。

幼稚園	公立	38	私立	12
小学校（5年制）	公立	52	私立	13
中学校（4年制）	公立	13	私立	9
高等学校（3年制）	公立	5	私立	3
工業高等学校		10		
職業高等学校		3		
大学		1		

トゥレーヌフランス語学院 外国人向けフランス語講座が開設され、一年間を通して多くの外国人が純粋なフランス語を勉強している。

また、成人、学生を問わず日本語学習が盛んであり、1991年4月より開校の甲南学園の中・高校生と地元の活発な交流も期待されている。

11 医療

市内に30の医療センターがあり、その1つにトゥール地域医療センターがある。

ベッド数 3,500、職員数 5,000人（うち、医師は960人）

入院日数 延べ105日、診療件数 39万件、来院者 56,000人

他に、トルソー病院があり、ベッド数720床、計画中のものとして、第2精神療法センター、産院が予

定されている。

私立病院は7か所、ベッド数700床である。

12 福祉

60歳以上の人約25,000人、4歳以下の幼児が約10,000人いる。

市立の老人ホーム（老人専用住宅）が8か所あり、有料である。うち1か所は、ワンルーム・マンション形式である。

他に、ホームレストラン6か所、養老院が2か所ある。

託児所は11か所、保育所（3か月～4歳）は6か所ある。

13 主な施設

市立図書館、博物館、美術館、映画館などがある。トゥール大劇場では、オペラ、演劇が上演される。大きなコーラスグループが3つある。

市の中心部からごく近くに憩いの森（アートの森、ラルセーの森）があり、面積は約400ヘクタールで、市民にとって遊歩とくつろぎの場となっている。

また、都市の緑地が230ヘクタールあり、年間750,000本以上の花、植木が植えられている。

1993年9月にはトゥール駅前に収容人数2千人の国際会議場、ル・ヴァンシーがオープンし、以来各種講演会、演劇、バレエ、コンサート等が開催されている。

14 スポーツ

市立スポーツ・センターには、オリンピックプール、スケート場、室内競技場、体育館、スポーツ医学センターなどが設置されている。

また、シェール川でのボート、カヌー競技、サッカー場など多数のスポーツ施設がある。

市民スポーツ団体は約160クラブあり、約90種類のスポーツを実施している。主なものは、フットボール、陸上競技、バスケットボール、アイスホッケー、バレーボールなどである。また、身体障害者スポーツとしてバスケットボールにも力を入れている。



IV 行程日記

全行程記録担当：溝口千穂

3月20日(木) 曇

□ 7:35

高松空港集合 1階全日空カウンター前

・高松市国際交流協会の事務局長、国際交流課の課長、課長補佐、係長、そして旅行会社の方やそれぞれの家族に見送られた。

・8:35 ANK-722 便にて高松空港を出発。

□ 11:40

JAL-425 便にて関空発空路パリへ

□ 17:05 シャルル・ド・ゴール空港着

・入国審査後、係員と車にてル・メリディアンモンパルナスホテルへ。

ホテル到着後、夕食までパリの街へ。3人で近くのスーパーマーケットINNOにて買物。

・20:30 ホテルのレストランにて夕食（ビュッフェスタイル）をとる。

・22:00 各自ホテルの部屋へ帰る。



イザ出発！



JAL425、シャルル・ド・ゴール空港着

3月21日(金) 曇

・7:00 朝食。

□ 9:25 市内見学へ出発

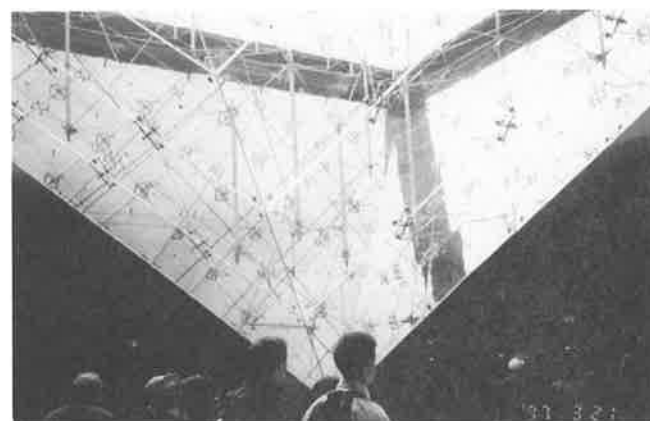
・リュクサンブール公園散歩。マロニエの小径の奥に自由の女神像を発見した。車中よりパンテオン、ソルボンヌ礼拝堂、カルチェラタン（大学街）を見ながら、舟の形をしているノートルダム大聖堂に到着。ノートルダムとは「パリの聖母マリア」の意味である。

また、下水道博物館はフランスにだけあるもので、流れていると臭くない。

パリのような大都会は1人で住んでいる人多く、その為ペット（特に犬）が多く、従って道路にフンが多いという話をガイドのイエノさんから聞く。

・12:00 「カフェ イノ サンタ」にて昼食。

・フランス人の奥さんを持つイエノさんのウイットに富んだ話に耳を傾けた。



ルーブル美術館（カールゼル広場）

- 昼食後、ルーヴル美術館（古代から19世紀前半までの美術品を展示）、さかさピラミッドを通り、ダイアナ（月の女神）、ミロのヴィーナス（静と動の絶妙のバランス）等を見る。
- 17:00 ホテルに帰った後、3人で再びパリの街へ出かけ、スーパーマーケットINNOへ。

3月22日(土) 快晴

- 7:30 朝食。
- 9:00 ホテルを出発。
- 9:30 郊外にあるベルサイユ宮殿見学（フランス絶対王制の華麗な世界）
 - 王と王妃の大広間、鏡の回廊
 - エッフェル塔を遠くより眺める。
 - 凱旋門は時間がないため往復らせん階段をマラソンで登り、コンコルド広場を車で一周。
- 12:15 レストラン「サン・ジェルマンの鐘」にて昼食
- 13:40 モンマルトルの丘、画家の広場を見学
 - 14:00 古着屋「ゲリソルド」へ。
 - 15:00 三越にて買物。
 - 17:00 ホテル着。
 - 19:30 ホテルに帰った後 夕食。



アンボワーズ城

3月23日(日) 晴

- 7:30 朝食。
- 9:30 歩いてモンパルナスの墓地を見学
 - 歩いてカタコンブを見学。

カタコンブ：紀元前から採石場として使われていたところで、18世紀末、納骨所として利用されるようになる。坑道の壁に骸骨が整然と並べられていて、不気味な感じのする所。
 - ホテルに帰った後、泥で汚れた靴をそれぞれが部屋へ戻り、大急ぎで磨く。
- 12:00

ホテルのレストランにてゆっくりと昼食
- 14:30 ホテルを出発。
- 15:25 パリ発 TGV-8441にていよいよトゥール市へ向う
- 16:21 サン・ピエール・デ・コール着
 - ジャンマリ・バレール氏が駅のホームまで出迎え。
 - 改札を出て奥様の範子バレールさんと彼等の愛犬と初対面。
 - 御夫妻の案内で、我々3人は御主人運転の車に乗る。

17:05 アンボワーズ城見学

- 17:30 シャトー・レオナルド・ダ・ヴィンチを見学。17:52まで。その後CHATEAU DE LA BOURDAISIÈREでフランスに3人しかいない（パリ在住の）プリンスのひとりに会うことができ、感激。
- 乙武さんをホームステイ先へ、マダム・クリスティーナのお宅を拝見。

夕食

- バレール氏宅の近くの中華料理レストランにて、乙武さん、クリスティーナさん、マドモアゼル・シャールリンを待ち、7人が揃ったところで食事。
- 夕食後は、それぞれのホームステイ先へ。

ホストファミリーと交流

- 平山さんのホームステイ先は、事情により突然変更になり、私溝口と同じ家庭にホームステイ。

3月24日(月) 曇りのち雨

- 8:00 朝食。
- フランス人はほとんど朝食はとらないとか、フランスパンと飲物、果物で簡単に済みます。
- 8:30 バレールさん宅を出発。途中、レブビリックフオブリーズ教会を車窓に見ながら乙武さん研修の小学校を訪問、2つのクラスを参観。
- レストランにて昼食会。

14:53 職業訓練所 研修

- ジャック・ビーグル所長さん自ら運転の車でトゥール〜サンシェール〜トゥールを往復。訓練所では説明そして案内して下さる。
- 職員数90名 そのうち60名が先生。
- 通常300〜400名の訓練生。
- 16:40 バレール氏宅へ到着。
- 平山さんの研修課題である郊外のマーケットへ、範子さん、平山さん、私で行く。
- その足でトゥレーヌ仏日協会の皆さんとの交流会会場へ到着。

17:00 交流会スタート

1:00 午前1時ホームステイ先へ帰着

3月25日(火) 快晴

- 8:00 朝食。

11:00 市役所表敬訪問

- ジャン・ピエール・トロシャル助役の部屋へ通される。トロシャル助役が市長代理で我々の表敬訪問を受けてくれた。そして、Jean Germain市長への増田昌三市長からのメッセージをトロシャル助役へ手渡す。

助役とは、範子バレールさんの通訳によって、私の専門とする分野の話に花が咲き、これを機会に

英米文学とともにフランス文学についても学び始める事を約束。

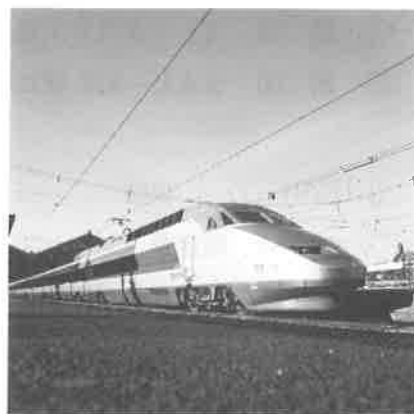
- 12:30 トロシャール助役と会食
- 14:30 市の厚意でガイド付き市内観光と、市庁舎内部の見学
 - ・歴史上の人物及びすばらしい壁画の数々に目を見張る。
- ホストファミリーと交流
 - ・帰宅後、バレールさんと平山さんの3人で歩いて近くのスーパーマーケットで買物をする。ホストファミリーでの初めての夕食は、バレール御夫妻、悠ちゃん、愛ちゃん、みきちゃん、平山さん、私の計7人で奥様のおいしい手料理をいただく。
 - ・バレール氏より若い頃のアルバムを見せて頂き、道教の修業をされているのに親しみを感じる。なお、長女の裕子さん(20才)はパリにある大学に在学中との事で留守。



トゥール市庁前にて。トロシャール助役さんと(左から2人目)

3月26日(水) 晴

- ・8:00 朝食。
- ・9:27 各ホームステイ先を出発する。St・ピエール駅にて、マダム・クリスティーナに送ってもらった乙武さんと合流する。バレール御夫妻とクリスティーナに見送られた3人は、駅のホームで涙のお別れ。
- 9:37 St ピエール駅発 (TGVでパリ モンパルナスへ向かう)
 - ・バレール御夫妻には4日間、精力的に2台の自家用車にて我々を案内していただき、高松市とトゥール市の友好親善のために多大な御協力をいただき心より感謝。
 - ・10:35 モンパルナス着 2台のタクシーにて北ノルド駅へ向かう。
- 12:13 北ノルド駅発 TGV 9027 にてロンドンへ、車内でランチサービスをとる
 - ・14:13 ロンドンWaterloo駅着
- 14:50 タワーシスルホテル着
 - ・私の部屋のルームキーだけ調子悪く、部屋を変えてもらうのに時間かかる。
- 17:30 夕食
 - ・夕食をレストランでとるが、ここで改めてフランスでの料理の美味さを再確認。
- 19:15 シェイクスピア「マクベス」観劇
 - ・出発前日に近畿ツーリストより入場券入手の連絡をいただき、小劇場ではあるけれども思いがけなく演劇の盛んな本場の雰囲気を楽しむことができた。また地元の人々にも、香川大学に於けるのと同様にシェイクスピアに対する関心の深さを、目のあたりにして、トゥール市とは少し違ったヨーロッパ文化を体験。



世界最速を誇るTGV

3月27日(木) 快晴

- 7:30 朝食。
- 9:00 ホテルを出発
 - ロンドン塔、リチャード4世（反逆者の門）見学の後3人で「ビーフ・イーター」と呼ばれる守衛さんと記念撮影。
 - セントポール大聖堂を見学。
- 10:20 大英博物館見学
 - エジプトのミイラやロゼッタ石、スフィンクスを見学。
数々の彫刻や装飾品、大英帝国の底力を見る。
- 12:10 トラファルガー広場を通り、レストラン「The ASBERT」にて昼食
 - 昼食後アンティークの店「STEINBERG and TOLKIEN」へ買物。
 - 17:00 ホテルへ帰着。
 - 夕食後、それぞれの部屋で帰国のための荷造り。

3月28日(金) 快晴

- 7:30 朝食。
- 9:00 ホテルを出発
 - 車窓より映画「哀愁」で有名なWaterloo橋より、ビッグベン国会議事堂などを望む。
 - ウェストミンスター寺院、バッキンガム宮殿などのほか、衛兵のパレードも見学。
 - 12:00 レストラン「Adams Rib」にて昼食。
 - かの有名な フィッシュ・アンド・チップスは、ボリュームたっぷり。
 - 14:00 ヒースロー空港着。
- 16:00 B D-837 便にてフランクフルトへ出発
 - 18:35 フランクフルト着。
- 20:00 J A L-428 便にて関空へ。

3月29日(土) 快晴

- 16:15 関空着
 - 18:15 A N K-723 便にて高松へ。
- 18:50 高松空港着
 - 高松市国際交流協会 蓮井事務局長、国際交流課長、課長補佐ほか多くの人々に迎えられる。
 - 19:20 解散式
(お疲れさまでした。)

V 研修報告

(1) トゥール市への親善研修旅行を終えて

乙 武 千代子

私たち3人は3月23日(日)16時21分、トゥール市の玄関口サンピエール・デ・コール駅に着きました。「イザ進まん！」と気負い、スーツケースを押し出し、緊張感のはりつめた私たちの前に、救いの神様のように、笑顔いっぱいのバレール御夫妻が現われ、迎えに来てくださったのでした。

さっそく私達は、バレールさん達の案内でロワール川に添って、美しい広々とした風景を楽しみました。日没までアンボワーズを観光。中でもアンボワーズ城やシノン城は古い歴史を強く感じました。静かに今に変わらぬその姿に、もし私がこの時代に生まれてたらどんな生涯を生きたのだろう、なんて思いました。

呑気にできたのはここ迄、予定が変更になり、今夜からホームステイに入ったのです。私のホストファミリーは、仏日協会の会計をされているクリスティーヌ・ビッシュェさんのお宅で、現在、御主人はエジプトに仕事で行っておられるそうで、娘さんのシャアリー（15才）との2人暮らしです。

家の敷地は広く、近代的住宅で、各部屋にはシャワー、トイレ、洗面台がついていて、高価な調度品が品良く素敵に置かれ、生活のゆとりを感じさせます。家族で別々のシャワーを使うのも、干渉されず、わずらわしくなくていいかも知れない、若者なら喜ぶだろうと思いました。でも家族が顔をつきあわせ暮すのもいいものです。（ちなみに我家は8人家族）

それからこんな事も言われました。私には5人子供がいますと話す、必ず、2回目の結婚ですか？3回目ですか。フランスでは再婚をすると子供が5～6人くらいになるそうです。

翌朝、『バターン！！』とドアを閉める音で目が覚める。シャアリーが学校に行ったようです。母親のクリスティーヌの姿はなく階下を見ると真暗です。ここでもまた日本との違いを感じます。日本の母親は一般的に言うと、朝は一番に起き、夫や子供達の為に朝食を作り、家事と育児に追われ、自分の為の時間などほとんどない状態で、その上仕事にまで出てるから大変、この国のように、親は親、子は子としての生活をする、だから部屋ごとにバス、トイレがあるのかも知れないと思いました。

午前9時、モンルイの小学校を訪問しました。私はフランスの子供達に日本の文化を見てもらおうと、着物を着て行きました。

5年生のクラスを見学。若い素敵な先生が国語を教えています。1時間30分くらいかけて、ゆっくり、じっくり授業を進め、子供達の表情も明るくとてもいい感じでした。そして、問題がはやく出来た子は、家から持ってきたアメやチョコレートを机に出して食べているのです。（エッ！おどろいた！）また、棚に置かれた新聞や雑誌を読んだりもしています。先生は笑って見えています。服装も自由で、ピアスをしているおしゃれな子供もいます。



モンルイ小学校1年生

次に1年生の授業を見に行きました。教師は中年の女性でベテランみたいです。子供達はここでも伸びのびと、明るく楽しそう。席を立ったり離れたり、先生は叱ったりせず、立っている子は立ったままで授業をすすめているのです。大らかでこちらまで楽しくなります。

昼食を静かで感じのいい（古い建物の）レストランで取りました。1年生の担任の先生も御一緒です。先生はワインをグイグイ飲まれて陽気に笑っています。私は「午後の授業大丈夫かしら」と心配になりました。日本だと全国ニュースに出るかもネ、と後で3人は大笑いしました。その夜、私達のために仏日協会の皆さんが歓迎会を開いてくれました。

このパーティーには、甲南学園の校長先生や協会関係者の方達が大勢来ていただきました。

バレールさんと下のお子様2人とホームステイをしているお姉さんが、よくお手伝いをしていたのが印象的でした。特に2人のお子さんは、明日は大事なテストがあるというのに、夜の12時近くもまで、イヤな顔ひとつせず手伝っているのです。合間に本を広げて勉強しており、会が終わった時には、2人とも長イスで眠ってしまっていました。

交流会での挨拶で、バレール会長は会費の一部を阪神大震災の見舞金に寄附した事や、ふたたびこのように私たち姉妹都市親善研修生を受け入れることができ、親善交流が出来た事は、本当に喜ばしいことだと話されていました。



クリスティーン一家と



コロール人形

料理やワインに舌つづみを打ちながら楽しく過ごし、宴が盛り上がってきたところで私は、皆さんの前で「さくら、さくら」を踊りました。

この日この時の為に、週1回、屋島まで練習に行っていました。みなさんがとても喜んでくださり、肩の荷が一つおりの感じがしました。帰りはクリスティーンの家でいっしょに帰り、部屋に入るや心地よい疲れを感じながら、夕方買ってきてもらった人形を確認しようと、包みを解き見るとビックリ！人形の目が閉じているのです。「これは…何や！もっと目が

パッチリしたのでないと……………絶対明日取り替えてもらおう」と意気込んで寝たのです。

この人形が、起こすと目が開くタイプの人形だったとわかったのは朝おきて、まもなくの事でした。

3月25日(火)

6日目

今日は大切なトゥール市長への表敬訪問がある日です。

フランスの文化は人々がとても古い建物を大切に、誇りとし、今にその中で生活している事ですが、トゥール市庁舎も、やはり200年も前に建てられた立派な建物です。市庁舎だけでなく街の中には16世紀から今に

残る建物が多く残っているのに驚きました。

市長代理で私たちに会っていただいた国際交流担当のトロシャル助役は、とても若々しく、スマートな方でした。高松市長からのメッセージとお土産を渡し、和やかに対談を終えることが出来ました。助役さんは、ここ数年交流が絶えていたが、再開できた事はとてもいい事だと言われ、個人的にも、日本がとても好きで是非一度行きたいと思っておられる等、明るく話してくださいました。

トロシャル助役さんとの昼食会の会場は、格式ある有名なホテルで、オードブルから始まりデザートを食べ終るまで、大切な使命のひとつとして、緊張のしっぱなしで、ゆるく巻いた帯なのにとてもきつく感じ、それでも私は残さず全部いただいたのは旅に出てからこの時が初めて、自分ながらよく食べられたものよ、と感心しています。

トゥール市と高松市が姉妹都市となったのは1988年6月。今から9年前、その間高松市職員の方や、市民代表の方達がトゥール市を訪れています。そして、ここトゥール市のロワール河流域には有名な古城がたくさんあり、観光客が終日訪れています。街の中は、15世紀の木の骨組の家が並び、11世紀の建物も今に人々といっしょに生活しているのです。

私達は一般には公開されていない役所内を特別に見せて頂きました。大広間、描かれた壁画の数々に目を見張り、説明の言葉に耳を傾けながら、私の人生は古いものを未練なく捨ててきたものだと思いきりでした。そして、日本も世界に負けない程の歴史と伝統を持つ誇り高き国、自信を持ってこのことを子や孫に伝えてゆかねばと強く思わされたのでした。

今夜はホームステイ最後の夜、クリスティーンといっしょに台所に立ちました。ピカピカの台所、洗い物をするにも気を使います。2人でワインを飲みながら音楽が流れる中、気分も上々、娘のシャアリーも加わって楽しい夕食です。身振り手振り、英語、日本語、フランス語と何を言っているのかだいたい分かるものです。三味線で吹き込んだテープをかけると、クリスティーンは踊り出し、私は『こんびらふねふね』を踊ります。あきれ顔でシャアリーが笑って見えています。(どこの国も、おばさんは同じーと思ったか?)

料理が出来たと鍋を持って来ました。そこには『ごはん』が炊かれていたのです。思わず涙が出そうでした。私の為に作ってくださったのでしょう。国を越え、人種を越え相手を思いやるという事は、こういう事なのか。ほんのちょっとした行為が、人の心をなぐさめ、いたわり、生涯人の心に残る最大のプレゼントになることをしみじみ感じました。

私は50才を前に『50の坂が越えづらい』とっておりました。それなら今までの経験を生かせ、これからの人生に華を添えたいと考えるようになり、この親善研修に応募したのでした。おかげで何と素晴らしいプレゼントをいただいた事か。お金や物で買えない、最高の贈り物(人を思う心のプレゼント)です。

3人はまたこんな事でも大笑いをしました。洗った小カブを少し葉をつけ皿に盛りました。私は葉ごと味塩をかけ、バリバリと食べたのです。クリスティーンとシャアリーの2人が顔を見合せています。生野菜の歯ごたえよろしく、いくつも食べました。ふと彼女らの皿を見ると、青々としたやわらかい葉を残しているのです。「どうして食べないの?」と聞くと、「それは、兎が食べるものだ」「日本人はそんなものを食べる



トゥール市役所の中

のか」「もちろん」「だから日本人は細いのか」と2人で話しているのです。もう笑ってしまいました。以来私は「ラビット乙武」と呼ばれています。

シャアリーからおみやげをもらいました。エジプトの人形です。父親からの土産品でしょうに、私はここで初めてフランス式挨拶（頬へのキス）が出来たのです。そして彼女が何年来の友のように思えました。

明日の朝は寝過ぎるといけないので、シャアリーにドアをノックしてもらおう事にしました。彼女を朝、日本式に見送ってあげようと思ったのです。私達は夜11時近くまで陽気に飲んだり食べたり踊ったりして心に深く残る楽しい一時を過ごしました。

3月26日(水) 7日目

ドアをノックする音、約束通りのシャアリーです。「グッモーニン ショーコ！」（チヨコと発音しにくい彼女たちは私をショーコと呼ぶのです。）着がえを済ませ下に降りる、彼女は出かけた後でした。あれ程見送ってあげようと思っていたのに……………シャアリーの可愛い笑顔がうかびます。

ここで大切な事を思い出しました。バレールさんは、日本人からのホームステイの世話をよく頼まれるようですが、中には気に入らないとか、お金がないのでよろしく等言って来るのだそうで、日本の若者が来るのはうれしいが、虫のいい事ばかり思って来る（甘い考え）と本人も大変だからと忠告してくださいました。

この地でのホームステイ料金は1ヶ月2000フラン程度（約4～5万円）だそうです。今日も観光途中短期（3ヶ月）ホームステイをするという若い女性に出会ったのですが、その方に対し、献身的にお世話をしている様子を見、頭の下がる思いがしました。同時に、私達をふくめ大勢の人達がトゥレーヌ仏日協会の方々にお世話になっていることかと深く感じ入りました。

8時30分、朝食を済ませ、家とクリスティーンをしっかりとビデオにおさめ、出発の時間です。サンピエール駅には、すでにバレール御夫妻に送られた溝口さんと、平山さんが来ていました。範子さんの笑顔が近づいて来た時、たまらなく涙がこぼれてしまいました。前向きに、惜しみなく生きる彼女の生きざまに感動し人間性にふれた私の心は、尊い貴重なものに出会えた喜びで一杯です。

周囲の目を気にする事なく私達は別れを惜しみ、3日間の思い出をしっかりと胸にたたみ込み、ツールを後にしたのです。

さようなら バレールさん

またお目にかかります のりこさん

ありがとう クリスティーン

涙が止めどもなく流れました。（3人とも）

人と人とがなかよくする。言葉も、物も、お金もいらない。ただその人をどれだけ思ってあげられるかだと再度思った3日間でした。振り返れば、長いようで短い親善研修でした。私達3名が、ケガもなく、病気もなくこんなに元気に帰れたのは、たくさんの方達が親身になって私たちの世話をし、温かく見守ってくださればこそです。

そしてこの旅で、人生を変える程の人達にもお目にかかる事ができました。高松市国際交流協会の皆様、旅行会社の方達、トゥレーヌ仏日協会の方々、ありがとうございました。心よりお礼申し上げ、今後協会の事業に対し、心からの支援と協力をさせていただきます。

(2) フランスでの体験生活

平山 万友美

日本からフランスに向かう飛行機の中でこれから、どんな方々にお会いし、どんな施設を見学するかで頭がいっぱいになっているうちに12時間が過ぎ、無事にシャルルドゴール空港に着きました。パリ市内のホテルにチェックイン、これからフランスの見学の始まりです。

フランスで見たり聞いたりしたことをいくつかお話しします。

(ゴミ問題)

朝、パリの街でよく目にする風景です。道路に水を流して清掃をしています。これを見るとさすがに観光都市だと思いきや感心してしまいました。でもその反面パリは、環境問題にうるさいというイメージだったのですが、ゴミは分別回収はしていないそうです。これは、トゥールでもロンドンでも同じでした。想像していなかっただけにこれにはとても驚きました。

(街なみ)



プリュムロー広場にて

古い物だけでなく、新しい物と組み合わせたり、上手に古さと新しさを一つの風景に取り入れ全体的に街を作っているのがすばらしいと思いました。

ロワール地方のトゥール市はフランス王家のおひざもとでもあり、ローマ時代からの歴史が息づく古都の趣きと優美なフランスが街中に感じられました。優美で、おだやかといった具合にとっても、バランスがとれている街だと思いました。パリにはない奥ゆかしさも感じました。中世の古い建物が街に多く残っています。古い家は木組で外はレンガ、内はわらと土で作られているそうです。

私はこの木組やレンガ積の壁が見え、互いに支えあうようにして家が並んでいるプリュムロー広場に行きました。古い家の

ヨーロッパの人々は古い物や建物などをとても大切にしていると思いました。古い建物がとても多く、修復をしていかないと古い建物を守ることができません。そこで修復したところが目立ってしまわないように、もともとある古い所に合せて修復していくそうです。建物の高さを規制したりして街なみを大切にしていました。もちろん、日本でも一部の所にそのようなしている地域があります。か

とって



古い時計台

一階にはカフェ、レストラン、ブティックなどがあります。カフェのテーブルとイスは広場まで張り出していました。そこにはすごく若い人が大勢いておしゃべりを楽しんでいました。

この古い街と若い人の組み合わせがとても印象的でしたが、すぐ近くにトゥール大学があり学生たちがこの広場で憩うというのを聞いてなるほどと思いました。中世の時代の人々もこの広場でおしゃべりをしたりしていたのでしょうか。このように古い建物を上手に利用したり、不断から見たりしていると人々の古い物に対する意識も違ってくるのではないかと思いました。

(結婚や離婚)

フランスだけでなく日本でも多くなっているようですが、結婚という形式にこだわらなくパートナーとしていっしょに暮すということもよくあるそうです。女性も社会的に地位や収入ができ、無理に結婚という形式にとらわれなくてもよい大きな理由になっているようです。子供の数が減っているので、結婚してなくても子供を生んで育てている女性に対して、国が認めているのでこのようなケースも多いそうです。また結婚しても、離婚するケースがとても多いそうです。

これらのことにしても日本と比べると、周囲の反応が違うようで国によって考え方はいろいろだと思いました。

(個性)

モンルイの小学校に行って授業を見学させてもらって感じたことは、すごく生徒の個性を大切にしているということです。日本では個性といいながらも全員が一つの箱からはみ出さないようにしているように思います。いろいろな所を見学してみて良いところはそれを伸ばして、悪いところは改善していかなければいけないと思いました。

(ハイパーマートを視察してみて)

私はフランス人がいつもよく行くスーパーがどんなものかととても興味がありましたので、郊外のハイパーマートに連れていってもらいました。イノはダイエーやジャスコのような



スーパーマーケットのワイン売場



魚 売 場

感じでした。ハイパーマートは高松の郊外にもある大きなスーパーとよく似ていました。

大きい食品売り場に日用雑貨、衣類、おもちゃ、などが売り場にあり、それ以外におもちゃや、衣類、などの専門店が入っていました。薬局や化粧品店、郵便局などがありショッピングモールのような感じでした。ものすごい数のワイン



バレールさん宅にて

や量り売りのチーズがずらりと並び、量り売りのチーズだけで百種類位あるのではと思いました。さすがワインやチーズの国です。チーズを例にしてみても、量り売り以外にもパッケージになっている商品もすごい種類の数でした。肉、野菜、魚、チーズなど量り売りの単位は1kgからになっています。もちろんそれより少なくても買えますが、牛乳など飲料水などは1ℓ、1.5ℓなどが6本セットになっていました。ヨーグルトやプリンも8コや10コのセットになっていました。もちろんこれ

も少量用がありました。

買物をしている人を見ていると少量ずつ買っている人や1度に1週間分位買っている人などさまざまでした。仕事をもっている人が多いので、まとめて買っていくこともよくあるそうです。このようなハイパーマートや市場などで、日用品などをまとめて買い、日持ちしない物を家の近くで買ったりしているそうです。これらの材料で料理をつかって、みんなで話をしながら食事をしているのかなと想像しました。話しをしながらゆっくりと時間をかける食事を、家族や友人などとのコミュニケーションの場につかっているのが一般的だそうです。

今回、親善研修生としてフランス、イギリスに行ってみて、日本を外から見てもっと日本のことも勉強しないとイケないし、外国の人々に日本のことをもっと知ってもらいたいと思いました。また、一方ではヨーロッパの習慣、古い建物や古い物を大切にす気持ちなどをもっと知りたいと思いました。そして、国際交流といっても簡単なものではないということがよくわかりました。でも少しずつ市民レベルで国際交流を続けていければと思っています。

最後になりましたが、4日間お世話になりっぱなしだったバレール範子さんとそのご家族、そして国際交流協会の方々、いっしょに旅行した乙武さん溝口さん、みなさん本当にありがとうございました。



(3) 職業訓練所訪問

溝口千穂

ここで言う職業訓練所は、社会的に疎外されている人々のためのセンターであると、ジャック・ビーグル所長自ら強調されておられたのが印象的であった。私が望んでいた訪問先、体育館及び生涯学習センターとは大きく違っていたけれども、古いものを大切にすフランスにも、このような進歩的な社会政策があることを知り、貴重な訪問となった。

ビーグル氏は、1994年に、前ロワイエ市長からの依頼で、所長に就任したとのこと。彼の説明によると、この訓練所には、宿泊施設があって、泊まりながら訓練ができ、発足当時は、仕事を探している人々のための訓練所であった。その目的は、訓練後に、再就職できることであり、国、地方政府、県、市、企業、地方都市など、17ヶ所より経済的援助がある。フランスも、ヨーロッパが統一されるとその一部になるのだから、その意味で、この職業訓練所はヨーロッパの市場で働く人々のための施設にもなっており、現在において進歩的な、実験的な施設であり、非営利の団体である。

訓練生の年齢層は、18～50才で、対象者は、失業者及び安定所にリストがある人、そして、失業者で最低の生活水準を保っている人で、それ以外の人是有料である。有料の場合、1時間に30～100 フランスフランの授業料が必要であり、それは、社会的背景によって変化するものである。2年間に2千人、通常300～400人の訓練生がおり、それまで彼等は、ある程度訓練を受けて来るので待ち時間はない。

この訓練所は、免許等、資格をほとんど持っていない人々のための訓練所であるが、会社の中で技能を習得したい人々のための施設も必要ということで、できた訓練所でもある。職員数90名、そのうち60名が先生である。現在の建物は、1995年6月に新しく開設されたものである。

さて、建物の内部は、1階には事務室、心理的カウンスルの部屋などがある。

レストランは全収容人数80名で3人が、サービスに付く。28～30フランで食事ができる。

2階には、企業家のための部屋がある。収容人数12名。そのほか数学、生物のアトリエ、手紙・履歴書の書き方や会話の指導、会計の指導をする部屋があり、このほかカウンセラー、コピーサービスルーム、TV修理の人々のためのルーム等が設けられている。この様に、細かい、小さい規模に分けられて、サービスしている。週37時間働き、給料は10,000フラン、年間予算は、2,100万フランである。

日本の学歴社会の中で、その有り方が、取り沙汰され始めているけれども、卒業後、社会生活を営む上で、人間の



職業訓練所

重要な部分である精神的な横のつながりを、それも分け隔てなく大切にしようとするフランス人の大きい心を感じた職業訓練所への訪問であった。おそらく、このような社会政策は、人間が平等に生きる権利を守り、人々が非行や犯罪に走る事を防ぐことにもなるであろう。

トゥール〜サン・シェール〜トゥールと、ビーグル所長さん自ら、車で我々を送り迎えしていただき、また、御自身の仕事に真面目で熱心に取り組んでおられる姿、そして、その大柄な身体全体にあふれる優しい気さくな人柄に接し、ここでもまた、社会を実際に動かすのは、武力ではなくて、基本的な経済力の上にある人間の心であると確信した訪問であった。

1フラン=20.43円（6月2日現在）



大聖堂前にて



モンルイ市役所にて

(4) 真の国際交流とは、その中で家庭内主婦の果たす役割りとは

溝口千穂

日本の新幹線より見える外の景色は、そのほとんどが都会のビルや賑やかな街並みであるが、パリよりTGVに乗りトゥール市へ向かう車外は、一面、のどかな田園風景である。そして着いたのが、モダンな建物のサン・ピエール・デ・コール駅。初めてのトゥール市訪問への不安な気持ちが、まだ写真でしかお目にかかったことのない、ジャンマリ・バレール氏の、あのきさくなまんまるい笑顔によって、安心顔に変わるのが自分でもわかる。覚えてたのフランス語で初対面の挨拶をする。そして、氏と同じように、飾り気のない、御自身もおっしゃっているように、いつも自然体の範子・バレールさんの優しい笑顔が加わって、まるで久しぶりに会う友人との会話のように暫く話が弾む。その後、御夫妻の愛犬も一緒にトゥール市内のお城見学へ。アンボワーズ城、シャトー・レオナルド・ダ・ヴィンチ、そして、CHÂTEAU DE LA BOURDAISIÈREのプリンスが案内して下さった。その昔、パーティーが開催されたという場所などを見学する。そのシャトーの数々の印象を表現するとすれば、それは、まるで幻想的な世界を見ているようで、ゆったりと静かに流れる時代の波に我が身を任せているようです。今にもあのシャトーの一角から当時の人々が出て来て、彼等が、我々もその時代へ引きずり込んでしまいそうな錯覚さえ覚える程である。その土地に住む人々が、そのような伝統的なお城を、そのままの状態を守り残そうとする姿については、世界全体の流れが、あらゆる面で、近代化に向けて一直線にめまぐるしく進んでいる時代の中で、大切なことであり、伝統を重んじるというフランス人の心の一端をかいま見ることができる。



トゥール市内の繁華街

次に、今回のトゥール市訪問で出会った、家庭内婦人達、まず、範子・バレールさん、彼女は、フラン

ス人の夫を持ち、フランス語、日本語に堪能であり、その気さくな人柄からして日仏両国の親善のためには、最適の人物であろう。そして、トゥレーヌ仏日協会の交流会で、幸運にも隣りの席で、お話しする機会に恵まれた、マダム・GIL DORISE-FOUCAUDEAU。彼女は、静かに家庭を守り、子供を育てる、日本の昔から見られるタイプの御婦人だった。しかし、交流会では、御夫妻揃って出席、御主人へ内助の功を發揮しながら、お子様が英語を話されるとか、私とは、終始にこやかに英語で会



アンボワーズ城前にて



トゥール駅前

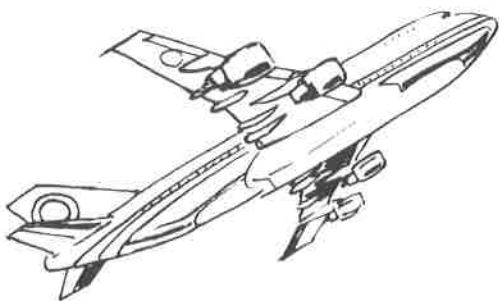
話をして下さった。そして同じテーブルの他の人々には、短い時間ではあったけれども、日本文化を紹介し、多分、喜んでいただけたと思う。それから、マダム・クリスティーヌ、建築家の夫を持つ彼女は、アフリカ出張中の御主人の留守中は、マドモアゼル・シャーリンを育てながら、テニスを楽しみ、車を運転、のんびりと時を過ごす、典型的なフランス人女性と見受けられる。彼女はトゥール市での4日間、私に対して、シャーリンも同様であるが、温かい思いやりの心で接していただき、

直接言葉を交わす機会は、あまりなかったけれども、その優しさは、私の心に十分届いている。そして、交流会会場のお城を管理されているという老夫婦、その控え目で、目立たないところで皆を支え、我々に、おいしい心のこもったフランス料理の数々を作ってください、お別れする時の挨拶の、あの頬のぬくもりを私は忘れないであろう。

真の交流とは、お互いを受け入れ、もてなす心、生活文化習慣の違いによる誤解を許し合い、その上で、自国の精神を受け継ぎ、後世に伝える、心の交流であると思う。

今度トゥール市を訪問するとすれば、文学とともに、もっとフランスについての文化、生活習慣を習得し、彼等の伝統的な考え方を理解するように努力した上で、地元での、オペラ、演劇、コンサート等、主に文化面を多く見聞できたらと思う。すでに私の心は、ますますフランスに対する理解を深めようと、動き始めている。

最後になりましたが、今回の研修で大変お世話になった高松市国際交流協会の方々、特に、藤本さんには、女性の立場から深い理解を示していただき、その心強い言葉に支えられて今回の研修を無事終えることができたことを、心より感謝申し上げます。そして親善研修実現のためには、なくてはならない人物、橋本係長さん、それから仏日協会のパレールさん御夫妻、旅行会社の方々、そして、今回一緒に研修へ行った乙武さん平山さんには、記録係の私を支えてくれて感謝します。お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。



VI. 新聞掲載文 - 出発に際しての抱負 -

高松市国際交流協会が、
姉妹都市のフランス・ツール市へ派遣する親善研修
生三人が十七日、出発を前

生涯学習見てきたい

ツール市への親善研修生 高松市役所で抱負



出発を前に、抱負などを述べる乙武さん、溝口さん、平山さん（左から）＝高松市役所

に市役所を訪れ井竿辰夫助役に抱負などを述べた。三人は溝口千穂さん（四五）主婦、平山方美さん（三〇）会社員、乙武千代子さん（四九）市教委嘱託職員。井竿助役から「健康に注意して頑張ってほしい」と激励され、「生涯学習の状況をよく見てきたい」「食品流通の仕組みを

調べたい」とそれぞれの目標と決意を述べた。

溝口さんらは二十日に出発、ツール市でホームステイなどを通じ友好と交流を深め、二十九日に帰高する。

平成9年3月18日付 四国新聞



